

平成29年度第4回八幡地域協議会会議録（HP版）

日 時 平成30年2月28日（水）午後1時28分～午後3時10分

場 所 センター 第3・第4会議室

出席者（12名）

1号委員 佐藤政義 相蘇照子 池田満好 本多秀之 後藤正一
石川正志 小松久美子 佐藤康晴 小松幸雄

2号委員 阿部喜至夫 高橋知美

3号委員 池田香

欠席委員 遠田秀明 丸藤祐一

政策推進課：地域医療政策主幹 池田恒弥 地域医療政策主査 小田雅之

八幡病院： 事務長 土井義孝

八幡総合支所：支所長（兼）地域振興課長 後藤啓、建設産業課長 伊藤将人

建設産業課長補佐 村上秀俊、建設産業課長補佐 土田正人

地域振興課長補佐 村上祐美、地域振興課主査 鳴瀬勉

傍聴者： なし

議事日程

1 開会

2 会議録署名委員の指名（後藤正一委員）

3 会長あいさつ

4 協議

（1）八幡地域ビジョンについて

（2）市長報告会における市長への提言について

5 報告

（1）平成30年度日本海八幡クリニック等の診療体制について

（2）八幡病院患者数等について（平成30年1月分）

（3）除雪の状況について

（4）平成30年度以降の「ぐるっとバス」の運行について

6 その他

7 閉会

【協議の概略及びその結果】

今年度の第4回目となる地域協議会は、平成12年に成立した「過疎地域自立促進特別措置法」が平成33年3月まで延長されたのに伴い、平成23年に策定された八幡ビジョンの

八幡地域全戸配布用の概要版の変更案及び3月27日に予定している旧三町の地域協議会の市長報告会に提出する提言の内容等を協議する場となった。地域ビジョンについては、一部修正し3月16日広報と一緒に全戸配布することで合意した。

また、市長への提言については、今回の協議会での意見等や今年度の協議内容を精査し、事務局と会長等で提言内容を協議することで了承された。

1 開会

○高橋知美副会長 本日はお忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。

これより、平成29年度の第4回目の地域協議会を開催します。本日、都合により欠席の委員は、遠田秀明委員、丸藤祐一委員の2名です。

2 会議録署名委員の指名

○高橋副会長 次に次第の2、会議録署名委員の指名を行います。番号順ということになっていますので、今回は、5番の後藤正一委員にお願いしたいと思います。後藤委員、よろしくお願ひします。

○後藤正一委員 はい。

3 会長あいさつ

○高橋副会長 それでは、会議次第に従いまして、池田会長からのあいさつをお願いします。

○池田満好会長 皆様、本日はご多忙中のところご苦勞様です。閉幕した冬季オリンピックでは日本勢が大活躍で過去にないメダル数となりました。年度末ということで、各自治会等では総会など様々な行事が行われると思いますが、そんな中、皆様からご出席いただきありがとうございます。本日で国の予算も衆議院から参議院に送られ決定する予定ですが、北朝鮮問題を抱えて、防衛費も5兆円を超えている状況です。酒田市の平成30年度の予算が約527億円ということで昨年比で2億2千万円多くなっていますが、酒田市総合計画も10年間の予定で来年度からスタートし、様々な立案がされています。市民の皆さんから様々なご意見をお聞きしながら、より良い酒田をつくるための計画になっており、様々な形でお手伝いが出来ればと考えていますので、皆さんの忌憚のないご意見をお願いします。

○高橋副会長 それでは、これより協議に入ります。会長が議長となり進めていただきます。

4 協議

○池田議長 それでは、最初に次第4の協議に入りますが、概ね、1時間半ぐらいの意見交換と考えておりますので、出来るだけ端的に要領の良い質問と答弁をお願いします。それでは、最初に、協議事項の1番、「八幡地域ビジョン」について、事務局から説明をお願いします。

○後藤啓八幡総合支所長

～八幡地域ビジョンの概要版（案）について～

資料1（八幡地域ビジョンについて）を基に説明。

- ・全体の概要として、八幡には魅力ある自然や農作物がある一方で、急速に進む人口減少や少子高齢化などの大きな課題があり、それらの課題に取り組む必要性や八幡の魅力等を生かした活動の推進等を記載。
- ・農林業や商工業、観光等の1「産業の振興」、歴史や文化、人々のつながりを大切にした2「教育・文化の振興」、「防災関係」、「保健・福祉・医療」、「水道」、「廃棄物処理」の分野の3「安全・安全のまちづくり」、道路整備や交通手段の確保等の4「道路・交通整備」、八幡の豊かな自然資源の保全や利活用の欄の5「自然資源の保全と利活用」、地域課題の解決に向けた取り組みの6「集落の整備」の6分野に分けて記載されて、上に現状と課題、下にその対策を記載。
- ・このビジョン（概要版）は3月16日号広報と一緒に全戸配布の予定。

○池田議長 ただ今、事務局から説明がありましたが、質問等があればお願いします。

○池田香委員 国の福祉事業関係の制度が一部変更になり、老人を受け入れる施設はリハビリ機能がないと評価基準が下がるようになった。それは、国の指針で運動機能があるお年寄りを維持したほうが医療費が嵩まないだろうということである。八幡にも福祉施設があるが、リハビリ機能がない小さな施設は国から入ってくるお金が少なくなる。しかし、運動機能のみの基準でなく、会話ができる等の社会性を維持させることが重要であり、心身両方を自立できるような指導を酒田なり八幡なりに検討してもらうことを提案したい。

○池田議長 施設や人的な問題で、リハビリができる、できないはあるだろうし、市からの

指導が重要になる。

○相蘇照子委員 お年寄りが老人施設に入ると、ちょっとしたことも、職員から「私達がするから」と言われ、動かないせいか病院に入るような重度の患者が増えてくると聞いた。

自分でできることは自分でさせるような指導ができる体制を希望したい。

○後藤支所長 ただ今の件は、ご意見として福祉課に伝えたい。

○高橋知美委員 施設に入っている老人達が、時間を有効に過ごせるよう小学校等で子ども達と触れ合える機会を増やすなど、交流する場を設けたらどうか。

○後藤支所長 放課後にお年寄りと交流している所は各地域にあるようなので、それらを参考にさせていただきたい。

○佐藤康晴委員 地域ビジョンの「産業」の欄に「集落営農組織の充実」とあるが、組織そのものが昨年度で無くなっているが、どうなのか。

○伊藤建設産業課長 法人組織も集落営農に含まれています。八幡地域は法人化や集落営農化が進んでいるが、旧酒田市では、そこまで至っていない地域もある。

○佐藤康晴委員 八幡では、「集落営農はもう無い」になっている。

○後藤支所長 この件については、修正したい。

○池田議長 他になければ、協議の2番、市長への提言について事務局よりお願いします。

○後藤支所長 ～市長報告会における市長への提言について～

資料2、資料3、資料3-1を基に説明。

- ・ 3月27日に地域協議会の市長報告会を予定。
- ・ 今年度の開催状況、協議内容について
- ・ 過去10年間の提言項目と過去5年間の提言と市長の回答について
- ・ 過去10年間の提言の項目数は35項目、多い順に「観光振興について」10件、「産業振興について」5件、「除雪や買い物等の生活課題対策について」4件、「子育て支援について」3件、「道路整備について」2件、「都市計画税について」2件、その他9件。

○池田議長 過去の提案等についても記載されていますが、第2回目の協議会では委員から

の提案等、様々な協議がありました。「これだけは」ということ等ありましたらお願いします。昨年は「観光客のニーズに合ったトイレを」等が出ていますが、酒田市でも観光には力を入れて行くといった姿勢です。昨年クルーズ船が来たが、今年は海外から世界一の船が4回位、日本のクルーズ船3～4回来る予定と聞いた。船を下りて周辺をバスで回るといった話も出ている。西郷隆盛の庄内藩への関わりということで、庄内空港と鹿児島空港からチャーター便が観光客を乗せて行き来する話や、ロシアの500万都市のサンクトペテルブルク市と友好都市を結ぶ等だいが観光に力を入れてきており、八幡においてもジオパークに認定されたということが大事になってくる。皆さんの考えはいかがでしょうか。

○池田香委員 酒田市の総合計画で観光に力を入れるということだが、例えば、大型客船が来るといった情報を市の広報紙だけでなく、細かく地域に流していただきたい。あと、市では川村瑞賢生誕400年記念を優先して西郷さんの件を後回しになっている気がしているので、盛り上がる情報は、まめにPR願いたい。

○池田議長 市としては一番の懸案となっている駅前開発に力を入れて進めるだろうとは思いますが、観光事業にそういったものを組み入れることは大切である。八幡においては「ジオパークが見れるか」運動的なものやっつけていかなければならないだろう。

○本多秀之委員 観光船のオプションツアーの件が出たが、基になる計画を練る段階で、ツアーの行程に八幡地域の観光を含まれたものにしないと、観光客が八幡に来なくて当たり前の話である。根本的な計画の段階での「八幡の地域資源を入れてほしい」といった意見を提示する場はあるのか。

○伊藤課長 昨年、市の観光振興課に玉簾ノ滝をツアーに組み込めないかと提案して、担当課がエージェント等と打ち合わせをした結果、ニーズや知名度の高い羽黒山等に取りられたようだ。市議会でも「酒田にどの位お金が落ちたのか」との話も出ており、来年度以降もう少し吟味した形でやれればと思う。

○池田香委員 八幡地域の特産品等をPRする場として販売者から市民会議等に参加してもらい、販売窓口などを尋ねたらどうか。そのような会議や大勢の観光客が来るといった情報を市ではどんどん出してもらいたい。

- 池田議長 昨年、大型船が来た際に、港に出た出店は商工会議所関係だけだったのか。
- 阿部喜至夫委員 「たわわ」にも大型船の港への出店の案内が行政から来ていたが、時期的に大勢の人達に販売するものが少なく今回は見送った。我々がもっと底力を付けていかないとそういった人達がドサッと来られても対応できない感じである。観光客が来るといった情報発信をすることは良いことだが、もっと我々の足元から見て行かないと、まだまだこちらまで来ていただいて、物を買ってもらい、観光していただくインフラの整備までは至っていない。
- 池田議長 今後の大型船が来ることは続くと思われ、それなりの品物を揃える対応は必要である。チャーター便についても、こちらから大勢の人が行って、向こうからも大勢の人達が来るような交流が大切であり、行政の方でも大きな声を発信してPRしてもらいたい。
- 小松幸夫委員 クルーズ船が来るのが続くようだが、八幡の観光案内版で日本語だけでなく外国語が入っているのがあるか、考えている最中である。大勢の観光客を迎えておもてなしをするという意味では、まだまだ力不足であり、そういった観光振興面でアドバイスできるような人材がほしい。
- 池田議長 太宰府天満宮の場合、中国や韓国から1千人規模で何十台のバスに乗ってやってくるという。軒並みに日本語と一緒に外国語の案内看板がある。八幡においても他の地域に負けないくらいのことをしないと難しい。
- 小松幸夫委員 バスの話が出たが、庄内地域のバス会社では大型客船に回すような余裕がないと聞いたが、行政で対応策はあるのか。
- 伊藤課長 実際、庄内のバス会社では間に合わなく、仙台までチャーターしたとのことだった。2千人のお客さんが一気に降りる訳であり、地元の企業では足りなかった。
- 池田議長 大型客船は今年も5～6回予定されており、今後も続くのであれば、一度酒田に来た人が「あそこにもう一度行ってみたい」となり評判も高まり、他の人も「行ってみるか」となるような対応を期待したい。対応が悪いと「あそこはダメ」となってしまう。他にございますか。
- 小松久美子委員 国道344号線が生活道路のため山越えをしているが、電光掲示板の道路情報が「路面凍結注意」等だけで直近の情報が無い。大雪だった1月26日の朝、途中、

除雪車と行き合ったので、344号線は通れるもので行ったが、酒田までの一本道しかなくて危険な思いをして真室川までたどり着いた。電光掲示板も「除雪中、通行注意」等の通行車に配慮した丁寧な情報がほしい。それと、観音寺から真室川までの間に24時間使えるトイレがあれば、そこに自動販売機でも置くと、ちょっとした休憩スペースにもなり、大沢コミセンや玉簾の観光客が増えている日向コミセンの場所を利用しての設置を考慮していただきたい。あと、国道344号線は携帯電波が通っておらず、何かあった際は連絡方法もないので、せめて携帯電話だけでも通じるように。344号線は利用頻度が少ないかも知れないが整備を要望したい。

○伊藤課長 県に道路情報とトイレの件について伝えたが、電光掲示板の道路情報についてはリアルタイムの情報は24時間体制でないために難しいとのことであり、トイレについても道路管理者は今のところ置く予定はないとのことだったが、大沢コミ振からもトイレを借りに来る人が多くて設置できないかとの要望を受けている。今後、ジオパーク事業との関係を含めて前に進めていきたい。

○池田議長 玉簾の現地のトイレでは大勢の観光客だと混雑すると聞いており、大型化が望まれる。少しずつでも良いので対応をお願いしたい。

○伊藤課長 玉簾からも要望を受けており、トイレだけの建設だと難しいがジオに絡めると可能性がある。

○石川正志委員 大型客船が来た際、酒田の旧市にも夢の倶楽等の観光施設がある訳だが、効果の有無等のアンケートは取ったのか。私の中の観光客のイメージは、露店など、その場で食べれて、酒田のお酒を少し買って船で飲むとただただ、何万円も落としてくれる人はいないだろうというイメージがある。購入できる金額も限度がある訳で、観光施設のアンケートも取らないで、ただ「今年も来るから」となっても、どうかなと思う。大型客船で来る客よりも、海上自衛隊が酒田に寄港して隊員がいっぱいお金を落としてくれると聞いている。何万円とか使って佐世保に送る人もいるので大型客船よりも効果がある。客船のインバウンドで酒田の商売にどれ位、影響があったのかアンケートを取っていないのであれば、是非取っていただきたい。

○伊藤課長 その問題については、今度の3月議会で論議されると思われる。今のところ詳しい数字は聞いていないが、あまり芳しくはないようであり、来年度以降どうしようかといった作戦会議等も練られると思う。

- 池田議長 その辺は、行政と商工会議所の観光部会等でうまく対応を進めてもらいたい。
- 後藤正一委員 八幡には名所はあるが、それに付随したものが整っていないとのことなので、少しずつ改善して行ってもらいたい。
- 本多委員 計画段階からしっかり練っていただくというしかない。
- 相蘇委員 市条の祭りの件だが、みこし担ぎなど他の地域では盛り上がっているが、市条の場合、活気がない。他の地域からの参加を呼び掛けるとか、特色のある奴振りが居ますよとかのアピール等が必要である。
- 池田議長 地区の祭りは神事であり、神社の氏子等が相談して進めてもらうことになる。
- 佐藤康晴委員 祭りの5月1日は休日でなく、連休の中瀬でもあり、勤めている人は連休を休んでそこも休むことは中々取れず、若い人が参加しづらい状況にある。他の神社だと連休中に祭りをやる所がほとんどになっているが、あそこの神社は頑として聞かない。
- 池田香委員 以前、みこしの八波会に入っていた時に、みこしに掛け声は付き物だが、市条のみこしは、「わっしょい」等は禁止で黙って担ぐしかなく、そのせいか駄目になってしまった。
- 池田議長 特に大きな神社の昔からの役員にとっては、新しいやり方に抵抗があるだろう。
- 相蘇委員 写真付きの奴振りのメンバー紹介や「奴の槍はこんなに飛びます」といった広報も必要かなと思う。
- 池田議長 この件については、行政というよりも地域と神社の役員等と話し合って善処していただきたい。
- 石川委員 祭りの件で、去年あたりから「ふるさと休日」というのがあるが、酒田市は酒田まつりの日に全域で実施しているのか、それとも八幡地域は5月1日にやっているのか。去年・今年と5月20日が土日なので外れているが、来年以降どうなのか。
- 後藤支所長 学校は元々半日等である。「休日にしましょう」という導入の勧奨はあるが、制度上、必ず休めといったものではなく、企業等は個々の対応になっている。あくまでも「協力して下さい」といったものである。
- 池田議長 他にございませんか。
- 高橋委員 ジオパークやクルーズ船の件で、窓口を皆さんに提示することで情報発信がうまく回るのかなと思われる。建物等は別にして、情報発信する窓口を早めに作って皆さんに知ってもらい広めて行く活動が必要である。あと、これまでの市長報告会での市長の回

答を見ると、最近5年間に何回も繰り返した提言にも「特に回答なし」というのもあり、やはり今年度も伝えて行かなければならないと思う。「特に回答なし」というのは、具体的に何もしていないから「回答なし」なのか、回答する必要があるから「回答なし」なのか、その辺はどうか。

○後藤支所長 その場で市長の回答が特になかったということであり、担当課等には提言は伝わっている。

○高橋委員 子ども等の居場所づくりも出来ていないので力を入れてほしい。

○後藤支所長 市長の子育て支援の内容には「環境づくり」の文面が入っていますが、ただ、八幡地区に出来るとはなっていない。

○高橋委員 そこが私からのポイントになっており、提言として押しいただき八幡に持ってきてもらいたい。

○後藤支所長 ちなみに、来年度、旧保健センターから商工会が撤退するに伴い、事務室を改修して学童保育所を今の倍に広げる工事を予定している。

○池田議長 今年度の提言の内容については、今日の皆さんの意見を含めて大きな問題を事務局と相談して選びたいと思いますが、皆さん如何ですか。

○佐藤政義委員 会長一任でよろしいです。

～一同異議がない模様～

5 報告

○池田議長 次に報告のほうを端的にお願いします。

○池田恒弥政策推進課主幹

～「平成30年度日本海八幡クリニック等の診療体制について」（資料4）について説明～

- ・4月より「地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構」にて開設、運営
- ・診療科は4科（内科、外科、整形外科、リハビリテーション科）
- ・常勤医師は2名
- ・診療日は月～土曜日
- ・シャトルバスは4月以降も継続運行 等

○池田議長 何かご質問等ございますか。

○小松幸雄委員 シャトルバスは免許のない高齢者は八幡病院にかかっているなくても利用できるのか。

○池田主幹 無料バスとなっており、通常、八幡病院にかかっていた紹介患者や日本海や酒田医療センターの入院患者の見舞い等に使っていただくことにしている。ワゴン車で乗車できる数も少人数であり、「どういった方も乗って良い」となるとオーバーする可能性もあり、その辺は考慮願いたい。

○高橋委員 聞いた話だが、具合が悪くなって救急車を呼んで搬送される時に、八幡病院の診療体制が変わったということで10分間くらいどこに運ばば良いか悩んだ結果、日本海病院に搬送されたとのこと。実際その方は亡くなったが、救急車がどこに運ばば良いのか時間がかかるようでは問題である。

○池田主幹 救急隊の詳しいことはわからないが、10分間も悩むというのは聞いたことがない。救急隊は基準に沿って搬送するので、緊急性がある場合は間違いなく日本海病院に運ぶが、そこまでしなくても良い場合は、八幡病院にかかっていた患者は営業時間の関係もあるが病院と連絡を取り、一旦、医師の判断で八幡病院で受診する場合もある。あくまでも緊急性による。救急隊が悩むことは考えられず、病院に運ぶ際に「前処置」というのがあり、その状況にその都度対応していると思われる。八幡病院は病床が無くなり救急告示指定病院の指定は外れたが、体制的にはそんなに変わっていない。入院が出来るか出来ないかと、夜間に受け入れが出来ないということであり、患者の容態によって判断し、あくまでも緊急を要する場合は日本海病院に搬送となる。

○相蘇委員 救急の件だが、救急車を頼んだ時、「日本海病院をお願いします」と言っても、連絡などをして家から出発するまで15分間くらいかかった。カルテも事前に準備して見られるようにしてあるので疾患に対して理解・認識し、もっと早く搬送していただきたいと思った。

○池田議長 改善の余地があると思われる。次に報告の(2)八幡病因の患者数についてお願いします。

○土井義孝八幡病院事務長

～八幡病院患者数等について(資料5)について説明～

- ・1月からの平日の患者数は延べ49人(1日平均2.6人で半分程度は予約外)
- ・土曜診療の患者数は延べ83人(1日平均20.8人、外患は午前中に集中)

- ・救急車の受入れ患者数（4人、80歳代3人・90歳代1人で全員八幡病院の通院患者）
- ・救急車の受入れは診療時間内で、事前に救急隊から連絡をいただき最終的に医師が受入れするか判断をする。
- ・シャトルバスを1月4日から運行（1日平均の利用者数1.1人）
- ・外来待合室を改修済。

○池田議長 何かご質問等ございますか。

無いようですので、次に除雪の状況について事務局よりお願いします。

○伊藤課長

～除雪の状況について（資料6）説明～

- ・昨年に比べ積雪量が多く、11月より稼働
- ・除雪の予算3億円は1月末で消化し、1億6,300万円を追加

○池田議長 何かご質問等ございますか。

○相蘇委員 市条地区の除雪の仕方が荒い。一方、升田のほうは、わずかな雪でも除雪車が稼働している。

○伊藤課長 除雪する基準は10cmであるが、升田方面は積雪が多く、早いうちに処理しないと段々溜まって固まるので、業者の判断で作業をしている。

○池田議長 積雪が非常に多くなって圧雪になった場合、除雪車が稼働しても底まで除雪できない。天候が緩むと轍ができるので、その際、除雪しないと益々ひどい道路状態になる。それから、除雪の稼働は夜間もやっているのか。

○伊藤課長 幹線道路は午前7時までに終了することとなっており、回る順番の関係から夜間に作業している所もあり、御理解願いたい。

○小松幸雄委員 街中に入ると、雪のために交差もできない時があるが、除雪車のオペレーターの感覚にもよる。青森みたいに除雪しないで圧雪する方法もある。

○池田議長 圧雪しても日中溶け出すと、逆に走りづらくなる。それから、除雪費は国などからの補助金はあるのか。

○伊藤課長 除雪機械は国の補助があるが、除雪は市単独の支出になる。

○池田議長 雪が少ない地域と多い地域は差がある訳であり、北国選出の国会議員はもっと声を大きくして除雪費用への補助を要望すべきである。

○伊藤課長 以前、大雪で県下全体に豪雪対策本部を設置した際は、県から補助金があった。

○佐藤政義委員 除雪分は地方交付税に加算されているのではないのか。

○伊藤課長 別会計に入っているため、金額等も把握が難しい。

○池田議長 次に除雪の状況について事務局よりお願いします。

○伊藤課長

～平成 30 年度以降の「ぐるっとバス」の運行について（資料 7）説明～

・検討委員会を設置し、住民を交えて計 3 回開催

（変更は次の 4 点）

① 升田、青沢線を産直たわわ、薬王堂前まで延長

② 1 台をマイクロバスからワゴン車に変更（3 台ともワゴン車へ）、赤剝・泥沢も通行可能に。

③ 一條循環線の 2 便を八幡クリニックの診察時間の関係で時間を調整

④ 庄内交通の有料バスへ間に合うような時刻の調整（青沢・やまゆり線）

・時刻表に日本海病院へのシャトルバスの時刻も掲載

・時刻表は 3 月 16 日広報と一緒に全戸配布予定

○池田議長 何かご質問等ございますか

～意見、質問等なし～

6 その他

○池田議長 次にその他ですが何かございますか。

○佐藤政義委員 各自治会でやっている「うきうきサロン」が平成 29 年度で終了し、やり方を変えると聞いたが、高齢者が集う良い機会であり、参加者も多く、高齢者が外に出て交流する機会が少なくなるのではないか。社会福祉協議会のバスも借用できなくなるという。税金を使っている訳なので移行せざるを得ない面はあるが。

○池田香委員 私が聞いているのは、社会福祉協議会から自治会に移行するだけで、なくなる訳ではない。5 人以上で企画すれば予算も出るという。

○佐藤政義委員 バスは借用できるのか。

○石川正志委員 社協のバスは自治会単位では借りられないはずであり、老人クラブ等の名

称でないといけない。

○池田議長 私の自治会も「うきうきサロン」で年1回、子どもからお年寄りまで集いバスを借りて研修として、市役所の新庁舎や葬祭場の建築現場、三川町の県防災センター等に行っている。防災センターでは、地震体験や防火訓練をやらせていただき有意義な研修となった。バスを借用する際は、そういった会を設けて申請すれば、今後も借用可能と思われる。

○池田議長 他にありませんか。ないようですので、これで第4回目の地域協議会の審議を終わらせていただきます。

7 閉会

○高橋副会長 皆さん、ご苦勞様でした。これを持ちまして、第4回目の地域協議会を閉会いたします。

以 上